



令和6年1月18日

住宅火災による高齢者の死者が急増中 ～過去10年で最多ペース～

令和6年に入り住宅火災による死者が10人（1月15日9時現在、速報値）発生し、昨年の同時期と比べると3人増加しており、過去10年で最多のペースで増加しています。

近年、住宅火災による死者に占める高齢者（65歳以上の割合）は約7割で推移していますが、今年は10人中8人が高齢者です。

過去5年において、住宅火災の出火原因第1位は「たばこ」で、第2位は「ストーブ」です。

また、令和5年中の火災件数は4,326件（速報値）で、令和4年中の3,953件から373件増加し、4年ぶりに4,000件を超えました。

東京消防庁では、出火防止対策と火災を早期に発見できる住宅用火災警報器と火災の被害を抑制する住宅用消火器の設置・維持管理を重点に呼びかけています。

- 1 住宅火災による死者の発生状況及び出火原因について（別添え1・別添え2）
 - (1) 過去5年において、高齢者が行為者の火災は、高齢者以外が行為者の場合に比べ、約4.5倍の死者の発生リスクがあります。（別添え1、3参照）
 - (2) 過去5年において、ストーブを出火原因とする住宅火災による死者は、約9割が12月から3月に発生しています。特に、電気ストーブが出火原因となった火災が約8割を占めます。令和5年中はストーブ火災による死者の9人すべてが、電気ストーブによるものでした。
 - (3) 死者につながった電気ストーブ火災の約8割は可燃部が接触、落下することにより発生しています。
- 2 出火防止対策について（別添え3）

近年、死者が発生した住宅火災の主な出火原因は「たばこ」「ストーブ」「こんろ」「コード」です。火の出る場所を知り、出火防止対策をとりましょう。
- 3 火災を早期に発見するために（別添え4）

住宅用火災警報器を設置することで火災を早期に発見し、速やかな通報や消火、避難が可能となり、被害を防止、軽減することができます。住宅用火災警報器を「全

ての居室・台所・階段」に設置し、適切に維持管理しましょう。

- ・定期的に（少なくとも半年に1回）点検をしましょう。点検は、「ボタンを押す」または「付属のひもをひく」ことで実施でき、正常な場合は、正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。
- ・設置後10年を経過したものは、電子部品の劣化等により火災を感知しなくなるおそれがあるため、機器本体を交換しましょう。
- ・全ての部屋の住宅用火災警報器が一齐に鳴動する「連動型」や一酸化炭素なども感知して火災の発生を知らせる「複合型」等、効果的な付加機能の付いた機器を設置するとより安心です。

4 住宅用消火器（別添え5）

消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に効果的です。いざという時に確実に火を消せるよう消火器を準備しましょう。

5 高齢者等の被害軽減に向けた普及啓発動画（別添え6）

前1、(1)のとおり、高齢者が行為者の火災は、死者が発生するリスクが高いものとなっております。そこで、東京消防庁では、高齢者等の家族や支援者、介護支援専門員（ケアマネジャー）など高齢者等に日常的に接する方々や、高齢者等自身が視聴し、住宅での危険箇所の改善につなげることを目的に、住宅での火災、地震、日常生活事故の危険性とその対策を紹介する動画を制作しました。高齢者等の被害低減に向けてご活用ください。

東京消防庁公式YouTubeで動画を公開しています。

「高齢者や障害者の住宅での火災、地震、日常生活事故の危険性とその対策」

詳細版 https://youtu.be/h_jRH8teUMw



簡易版 <https://youtu.be/7WEtoxlewyo>



※ 住宅火災による死者とは、寄宿舍、下宿、共同住宅、専用住宅及び長屋の用に供する建築物又はその部分から出火した火災により死亡した者（自損により死亡したものを除く。）をいう。

※ 同時期とは1月1日から15日までの間、死者は自損を除く。

※ 令和5年及び令和6年（1月15日9時現在）の数値は速報値。

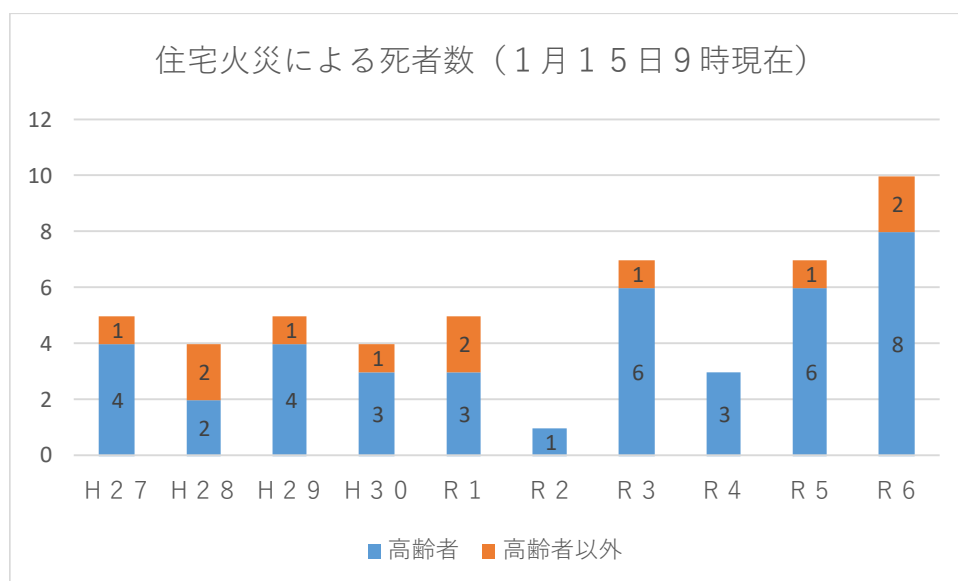
※ 行為者とは、「火災を発生させた者」または「火災の発生に直接関係があった者」のことをいう。

問合せ先

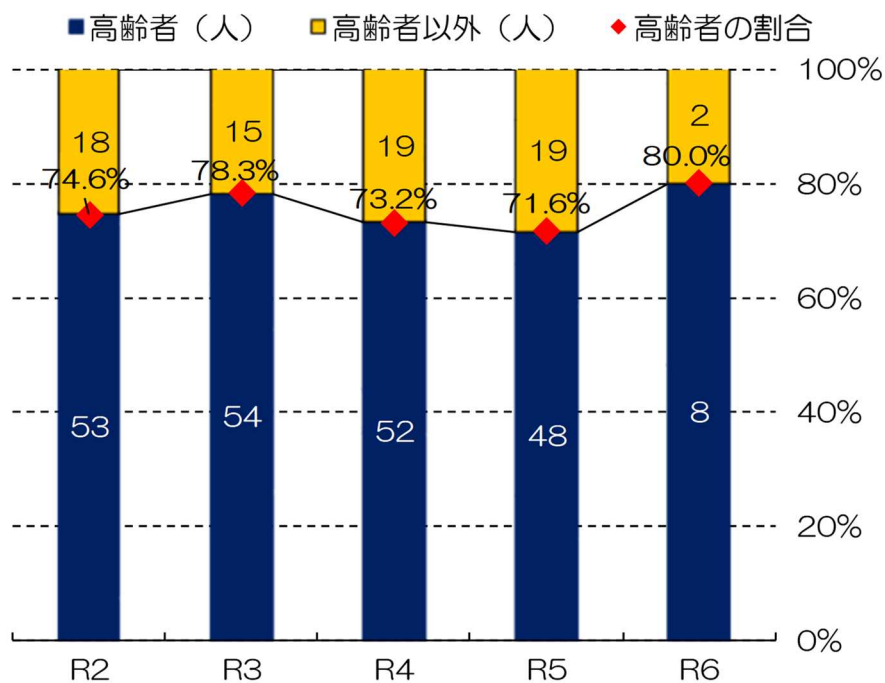
東京消防庁 (代)	電話 3212-2111
防災安全課生活安全係	内線 4195
調査課資料係	内線 5066
広報課報道係	内線 2345~2350

別添え 1

1 過去10年の住宅火災による死者数（1月15日9時現在）



2 過去5年の住宅火災による死者に占める高齢者の割合

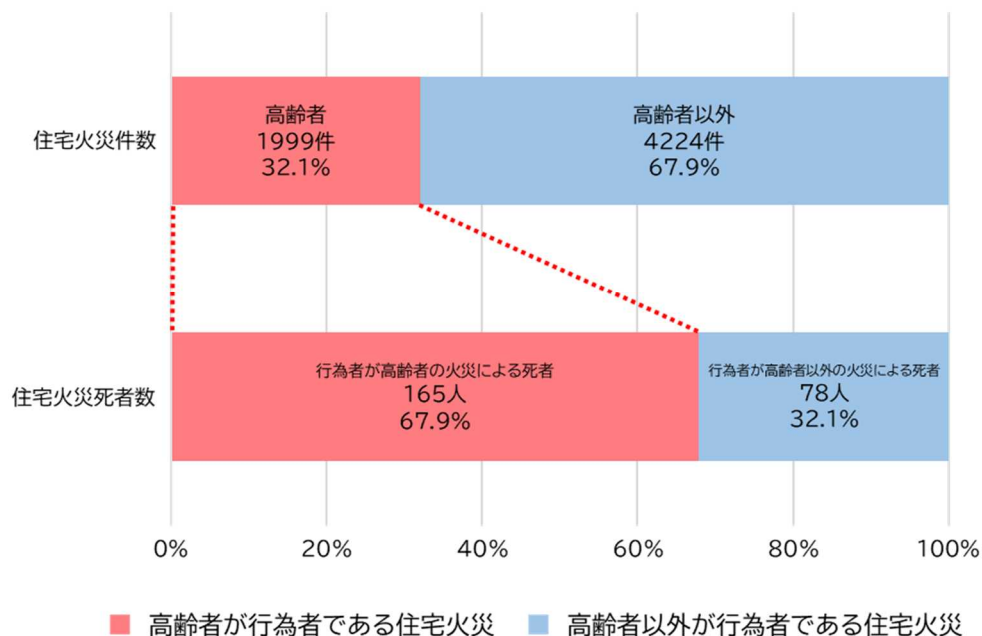


令和2年から令和5年の数値は1年間の合計値

令和6年の数値は1月15日9時現在の数値

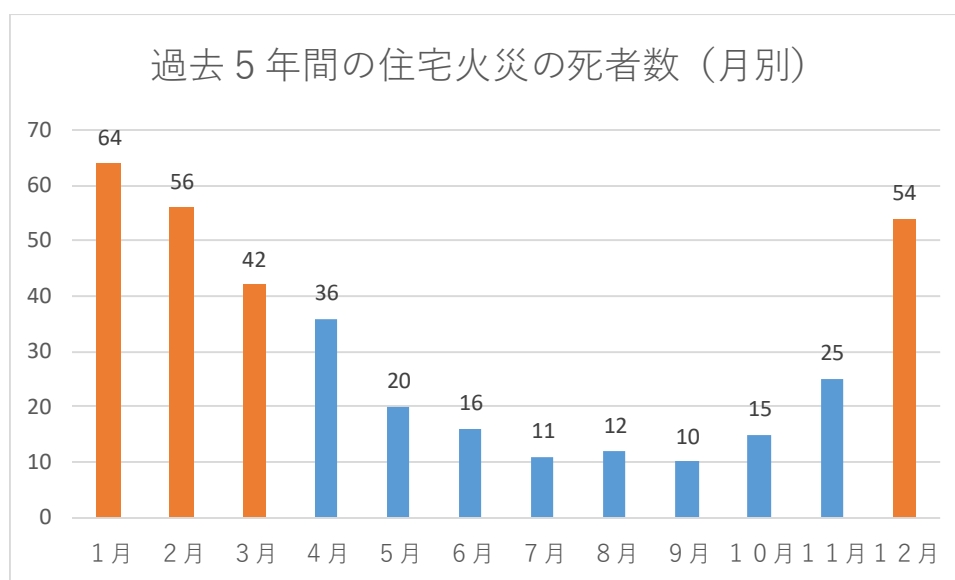
3 過去5年間の住宅火災の件数とその死者数の年齢構成比較

過去5年間の住宅火災件数とその死者数の年齢構成比較



※それぞれの数値は行為者不明、自損を除いています。

4 過去5年間の月別の住宅火災による死者数



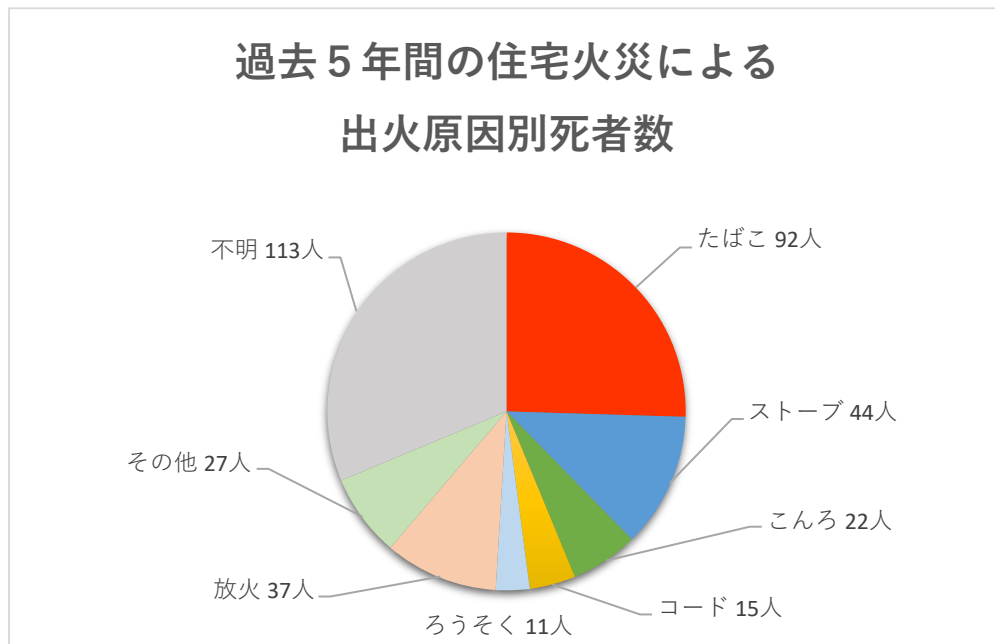
注1 住宅火災による死者とは、寄宿舍、下宿、共同住宅、専用住宅及び長屋の用に供する建築物又はその部分から出火した火災により死亡した者（自損により死亡した者を除く。）をいう。

注2 高齢者とは、65歳以上の者をいう。

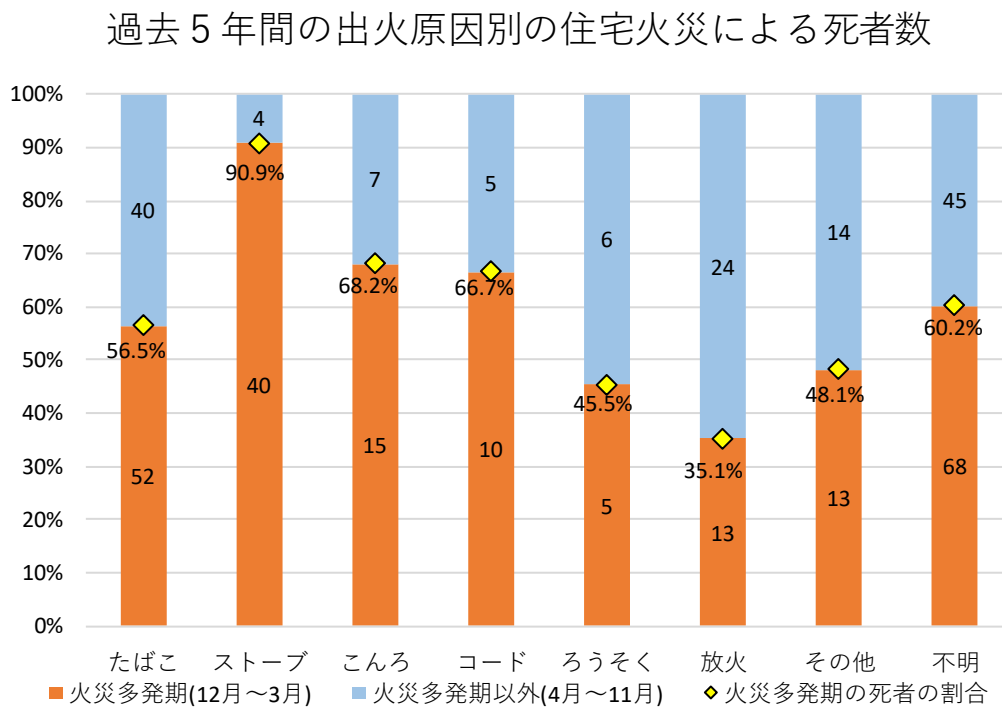
注3 令和5年及び令和6年（1月15日9時現在）の数値は速報値。

注4 行為者とは、「火災を発生させた者」または「火災の発生に直接関係があった者」のことをいう。

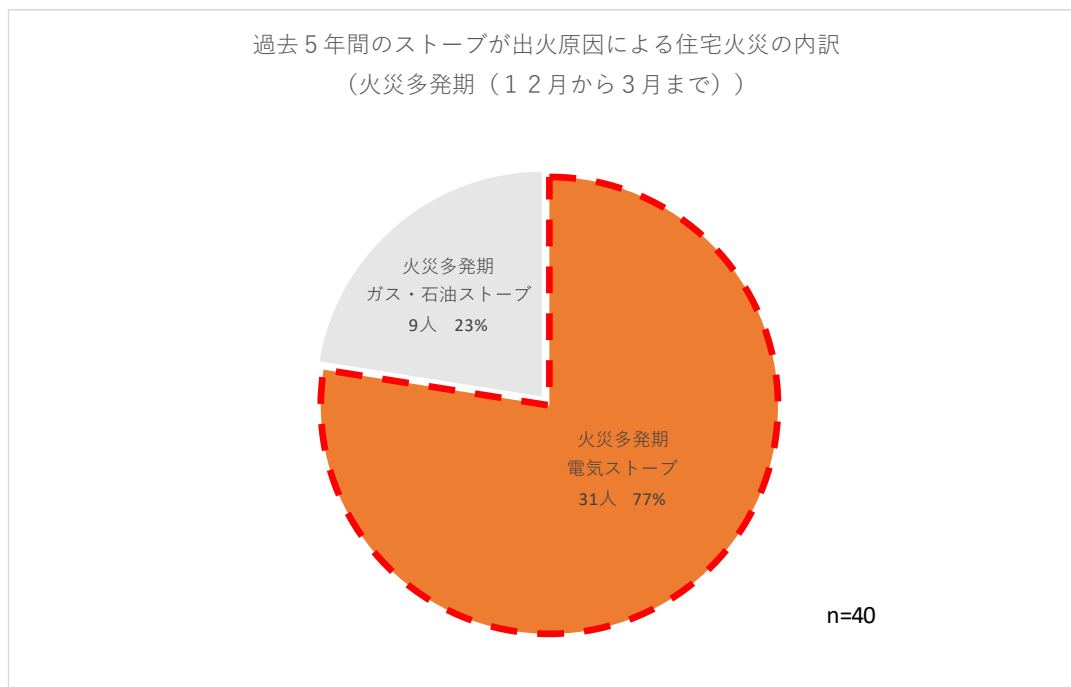
1 過去5年間の出火原因別の住宅火災の死者数



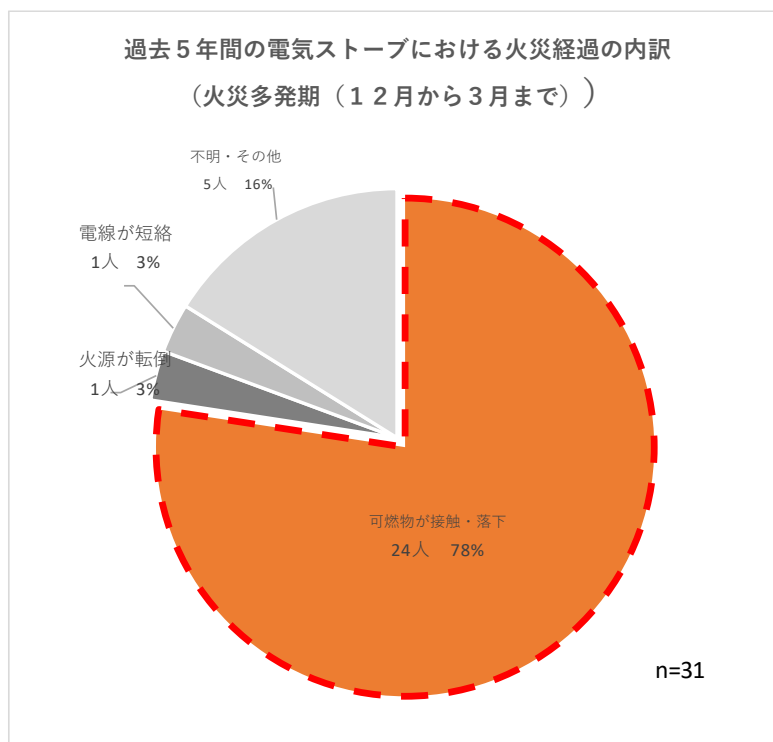
2 過去5年間の住宅火災による死者に占める高齢者の割合



3 過去5年間のストーブが出火原因による住宅火災の内訳（12月から3月まで）



4 過去5年間の電気ストーブ火災の火災経過の内訳（12月から3月まで）



注1 住宅火災による死者とは、寄宿舍、下宿、共同住宅、専用住宅及び長屋の用に供する建築物又はその部分から出火した火災により死亡した者（自損により死亡した者を除く。）をいう。

注2 火災多発期とは、12月1日から3月31日までをいう。

住宅火災の主な出火原因と防ぐポイント

～たばこ火災を防ぐポイント～

- 寝たばこは絶対にしない。
- 飲酒しながら喫煙し、うたた寝をしないようにする。
- 吸殻を灰皿やごみ箱にためないようにする。
- 吸殻を捨てる時は、必ず水をかけ完全に消火する。
- 火種を落とさないよう安全な場所で喫煙する。



～ストーブ火災を防ぐポイント～

- 周囲に燃えやすいものを置かない。
- 外出時や就寝時は必ず消す。
- 給油は必ず消してから行う。
- ストーブの上や近くで洗濯物を乾かさない。



～こんろ火災を防ぐポイント～

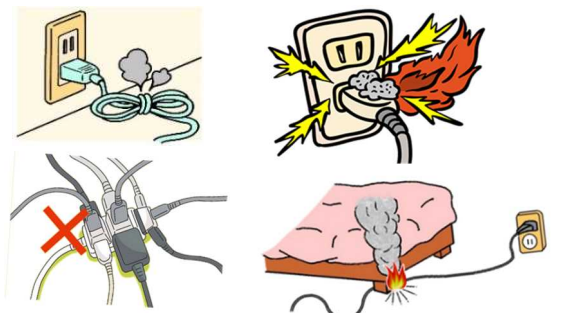
- 調理中にこんろから離れない。
- こんろの周りに燃えやすいものを置かない。
- 防災品のエプロンやアームカバーを使用する。
- 火が鍋底からはみ出さないように調節する。
- 安全機能付きのこんろ*を使用する。



* 現在製造されている家庭用ガスこんろは全て全口に調理油過熱防止装置、立ち消え安全装置、こんろ・グリル消し忘れ消火機能を有する Si センサーこんろです。

～電気コード等火災を防ぐポイント～

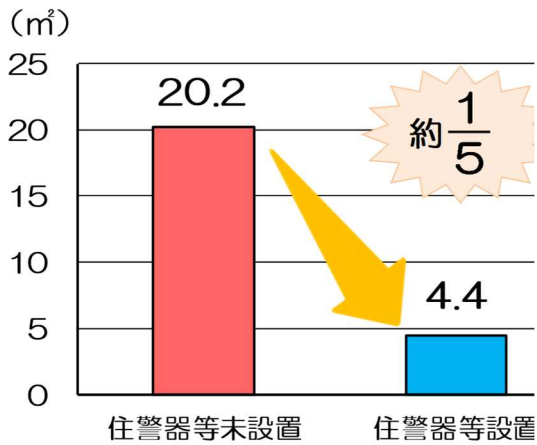
- 使っていないプラグは抜いておく。
- プラグ、コンセントは定期的に掃除する。
- 家具などの下敷き、折れ曲がりに注意する。
- タップは決められた容量内で使用する。
- 束ねて使用しない。



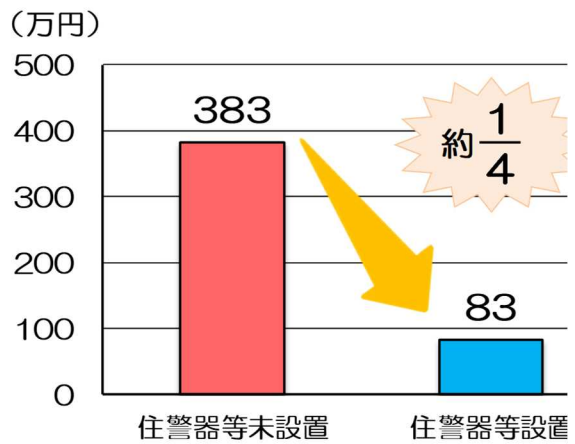
1 住宅用火災警報器の効果について

令和4年中の住宅火災において、住宅用火災警報器等の設置住宅と住宅用火災警報器の未設置住宅について比較すると以下に被害の軽減に効果があることがわかる。

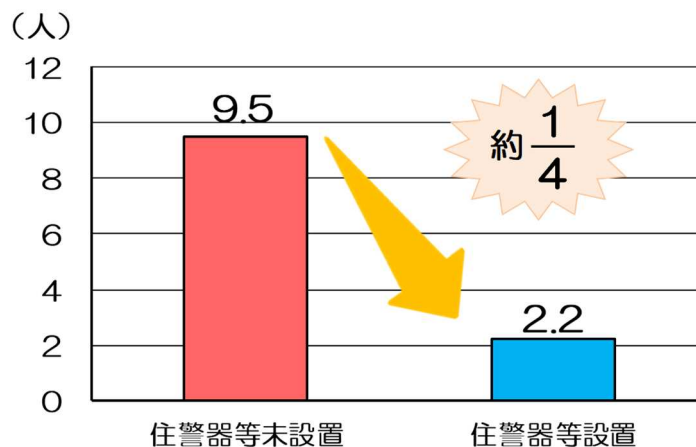
- (1) 火災1件あたりの平均焼損床面積について、住警器等未設置住宅は**20.2 m²**であるのに対し、設置住宅では**約1/5**の**4.4 m²**となっている
- (2) 火災1件あたりの平均損害額について、住警器等未設置住宅では**383万円**であるのに対し、設置住宅では**約1/4**の**83万円**となっている
- (3) 火災100件あたりの死者発生火災件数について、住警器等未設置住宅では**9.5件**であるのに対し、設置住宅では**約1/4**の**2.2件**となっている



住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均焼損床面積の比較



住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均損害額の比較



住警器等設置有無別の火災100件あたりの死者発生火災件数の比較

2 住宅用火災警報器の点検方法

本体のボタンを押すか、付属のひもを引いて点検できます。正常な場合、正常を知らせる音声や警報音になります。





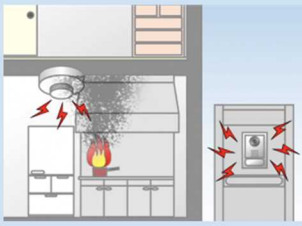

3 住宅用火災警報器の設置後10年を目安とした本体交換

住宅用火災警報器は古くなると電子部品の劣化や電池切れなどにより、いざという時に火災を感知しなくなるおそれがあります。

10年経過しているかわからない場合は、住宅用火災警報器を外して製造年月からおおよその設置時期を確認することが出来ます。

4 付加機能付き住宅用火災警報器の紹介

効果的な付加機能付き住宅用火災警報器等を設置することでより安心につながります。

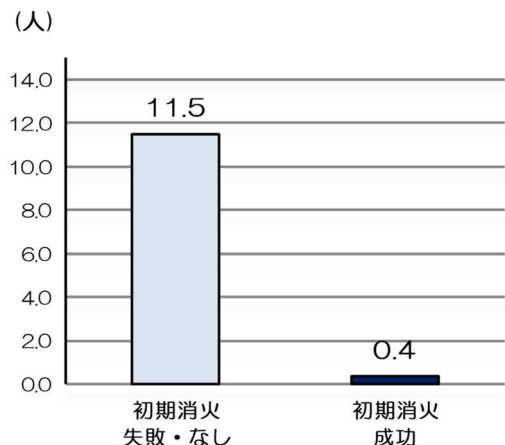
<h3>連動型住宅用火災警報器</h3> <p>火元で作動した住宅用火災警報器と連動して別の部屋の住宅用火災警報器も鳴動させます。</p> 	<h3>火災・ガス・CO警報器</h3> <p>都市ガスや一酸化炭素(CO)も感知して、あらゆる側面から火災等の発生を知らせる複合型の警報器です。</p> 
<h3>屋外警報装置</h3> <p>インターホンなどを通じて屋外にも火災の発生を知らせます。近隣住民などの協力が期待できます。</p> 	<h3>補助警報装置</h3> <p>火災の発生を警報音だけでなく、光や振動等で知らせます。高齢者や耳の不自由な方などに推奨されます。</p> 

消火器を設置しましょう

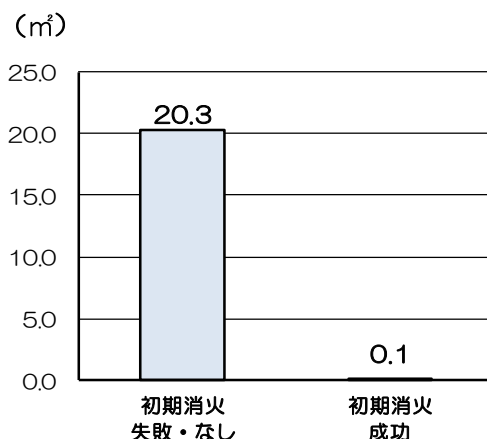
住宅火災の発生時に、初期消火が成功すると被害が大きく軽減されます。

いざという時に確実に消火できるよう、住宅内に消火器を備えましょう。また、使い方も定期的に確認しましょう。

令和4年中の初期消火実施別状況（自然鎮火を除く）



火災100件当たりの死者数



火災1件当たりの焼損床面積

消火器

～火を使う場所に備えましょう～

消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に効果的です。

一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器や、片手でも使用できるエアゾール式消火具もあります。



消火器を置く場所

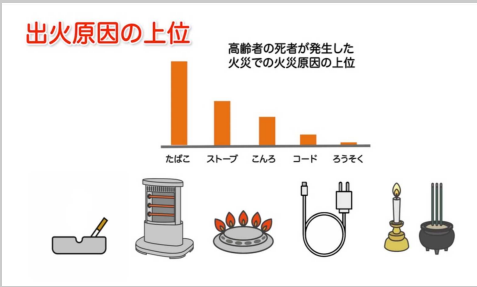
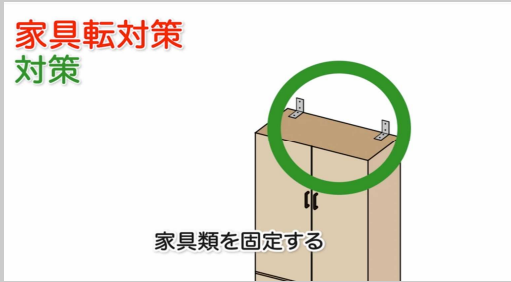

- 誰もが見やすく、使いやすい場所に置きましょう。
- 湿気が多い場所や日の当たるところは避けて、転倒しないように置きましょう。

初期消火のポイント

- ① 自身に危険が及ばない範囲で消火を行いましょう。危険を感じたら、すぐ避難しまししょう。
- ② 消火剤は燃えているものに向けて噴射しまししょう。
- ③ 消火剤は最後まで使い切りまししょう。

広報動画「高齢者や障害者の住宅での火災、地震、日常生活事故の危険性とその対策」

➤ 全編アニメーション。高齢者や障害者（以下、「高齢者等」という。）に関わる計10項目の危険性と対策を紹介

火災	地震	日常生活事故
 <p>出火原因の上位 高齢者の死者が発生した火災での火災原因の上位</p> <p>たばこ ストーブ ごんろ コード ろうそく</p>	 <p>家具転対策 対策</p> <p>家具類を固定する</p>	 <p>転倒 危険性</p>
<p>【項目】 たばこ、ストーブ、ごんろ、コード、ろうそく、コンセント・プラグ、住宅用火災警報器</p>	<p>【項目】 家具転対策（集中収納、レイアウトの工夫、対策器具の設置）</p>	<p>【項目】 転倒、熱中症</p>

※項目を6つに絞った簡易版もあります。

➤ 主な視聴対象者は、高齢者等の家族・支援者、介護支援専門員（ケアマネジャー）、訪問介護員（ホームヘルパー）など高齢者等に日常的に接する方や高齢者等自身

➤ YouTube東京消防庁公式チャンネルで配信しています。

詳細版（10項目、約10分）
https://youtu.be/h_jRH8teUMw



簡易版（6項目、約6分）
<https://youtu.be/7WEtoxlewyo>

